

# NRU 国労せんだい

NO. 2470  
2006年9月12日  
発行責任者 太田博二  
編集責任者 五十嵐敬

## 総討結で闘つ方針を確立 ◆第六一回定期地方大会を開催◆

国労仙台第六一回定期地方大会が9月2、3日、仙台市内茂庭荘において開催された。JR不採用問題の早期解決をはじめとして、労働条件改善、安全問題、組織強化拡大、昇進差別和解問題など諸課題について白熱した議論が行われ、運動方針など全議案を承認、決定した。

### 真摯な討論を

大会は橋本副委員長の司会で開催し、挨拶では「今大会の任務は、本部大会で承認されたJR不採用事件を解決させる方針を受けて地方においても全力で闘い抜く方針を確立することにある。職場の諸課題と合わせ



主催者を代表して挨拶する太田委員長

て真摯で活発な討論をお願いしたい。」と述べた。手続きに入り、資格審査委員会から代議員37名中32名、特別代議員と執行部全員の出席を確認し大会の成立を宣言。議長団に大庭(宮城)・金田(福島)各代議員を選出した。

### 委員長の挨拶

太田博二委員長は、不採用事件の年内解決を、昇進差別事件の和解と組織拡大、安全問題を中心とした職場の取り組み、平和問題 について発言し決意を述べた。

### 激励と連帯の挨拶

来賓挨拶は政党、友誼組織な

ど多くの方々(下記参照)から受けた。東日本本部を代表して挨拶に立った藤野副執行委員長は、本部結成60周年の伝統を運動に生かす取り組みを(エリア20周年) 政治課題、小泉反動内閣とそれを引き継ぐ安倍

ニューフロンティア2008は労働法制の先取り、安全問題、福知山事故、羽越線事故、首都圏輸送障害の多発と労組の役

### メッセージ

(敬称略)

- 新潟地本 守橋 久仁雄
- 千葉地本 土井 章
- 東京地本 阿部 力
- 高崎地本 横塚 正雄
- 水戸地本 高松 義雄
- 盛岡地本 奈良岡 克也
- 秋田地本 瀬下 一司
- 新幹線地本 望月 博
- 東北協議会 奈良岡 克也
- 宮城県交労 二上 宗一

割 駅業務大合理化問題、小駅の一括委託、中労委一括和解問題の経過、組織拡大等について述べた。また各地方本部等からのメッセージが菅原婦人部長から紹介され読み上げられた。

### 執行経過を承認

議事に入り、大会延期承認を得た後、締結した協定を大沼書記長が提案。2005年度決算報告を永山執行委員が行った後、秋山会計監査員より会計監査報告を受け、会館事業報告と予算の報告を中島副委員長が提案。

活動報告と2006年度運動方針(案)を書きながらいち提案した。協定・決算・会館・経過



優良機関誌表彰を受ける舟濤分会長

に対する質疑には川口代議員外6名が発言し、執行部からの答弁後に協定・決算・経過についての承認を得た後、2006年度予算(案)が提案された。

(各代議員の発言については発言集を作成し周知を図る。運動方針に対する質疑も同様)

### 優良機関誌表彰

昨年に引き続き仙台工事区分会の機関紙「ろばた」が地方本部規定を超える50号を発行をし、優良機関誌表彰が行われた。

### 2日目

#### 運動方針を拍手で採択

大会2日目は方針及び予算質疑から再開し、地方本部の中間答弁を挟みながら一般討論18名、前日の経過討論と合わせて25名が発言した。(会場の時間の制約上、挙手しながら発言出来ない代議員もいたが、原稿発言として発言集に掲載の予定) 2日間の発言を受けて、大沼書記長が行った集約では、JR不採用事件の早期解決に向けた闘いについて、反合理化、安全・安定輸送の確立、サービス向上に向けた闘い、差別是正、不公平感のない明るい職場作りについて、組織強化拡大の闘い、2007年春闘の闘い、平和を守り、労働者のための政治勢力の前進に向けた闘い、について見解を述べた(2面に全文掲載)。

集約に対し代議員からの異議は出されず、2006年度運動方針(案)並びに2006年度予

算(案)が採択された。

### 1票投票でスト権を確立

続いて出席代議員34名中、34名を確認してスト権1票投票が行われ、賛成34名で確立された。

役員改選は、地本会計監査(定数1名)、地方委員(定数22名)とも定数通りの立候補で無投票当選を確認。大会宣言と特別決議1本を採択した。

閉会の挨拶に立った中島副委員長は議長進行を滞りなく進めた両議長に労いの言葉をかけた後、「今大会の発言に学び、明日から職場で奮闘しよう」と述べ、太田委員長の「団結がんばろう」三唱で大会を締め括った。

### 来賓

(敬称略)

- 社会民主党・小山 勇朗
- 日本共産党・花木 則彰
- 宮城県平和労組会議
- ・及川 光行
- 宮城県交運労協
- ・星 秋雄
- 東北労金宮城県本部
- ・星 新一
- 全交運共済生協
- ・長田 節子
- 退職者の会・伊藤 敬吾
- 家族会
- ・二瓶さち子
- 国労議員団・佐藤 幸夫
- 国労東日本本部
- ・藤野 節
- 国労本部
- ・佐藤 勝雄

# 諸課題に全力を

## 書記長集約

1・JR不採用事件の早期解決に向けた闘いについて

「決まった方針を具体化していく」「大同団結」を大事にしていく」等、また、闘争団の生活を支える物資販売の取り組み、強化についての発言があった。取り組み、運動を教訓化し、全体で確認していきたい。

「大同団結」更なる強化が解決そのものである。闘いの陣形、要求は決まった。後はまとまって出口に向かうだけ、道は自らが切り開くこと。

あくまで政治解決方針であり、時効を止める位置づけの「新たな訴訟」である。与党対策がスムーズに進められるよう地方から運動を支えていくことが重要である。

国会議員要請、宮城県支部での取り組みがすすんで行われ、今後の日程も入っている。一万人アップピル運動、議会意見書についても関係議員へ要請をし、白石市では請願書の提出がされている。議会の傍聴体制な



集約答弁をする大沼書記長

ど、各地区に協力要請し、運動の積み上げを図っていききたい。闘争団生活支援、共闘の強化、拡大等々、一杯取り組んでいくこととする。

2・反合理化、安全・安定輸送の確立、サービス向上に向けた闘い

設備職場、パートナー会社の実態が報告された。設備部では、3つの事故を取り上げ、ルールを守るための取り組みとして、現場長が職場風土にあったスローガンを決めて、各社員が目標を設定する、という指導がされている。代議員の発言にあつたように、「原則線路閉鎖を」との目標に対し、現場長は、柔軟に、あくまで現状の体制でできる目標に、と実態が働く側の視点に立った取り組みでないといわれている。電気協議会、工務協議会で現状を集約し、ルールを守るためには何が必要なのか組織的に検討していきたい。

風規制、異常事対応、遺失物システム、コンピュータ化などで早期退職を選択する営業職場の実態、運輸協議会、営業分科と連携し改善の取り組みを進める。

運転職場の要員の関係については、休日勤務の実態調査が運転士、車掌で行われ、集約がされている。36協定締結時にも、支社に対し運転職場の超勤の実態から別途、要求をまとめ申し入れることにしている。東日本本部で取り組んでいる「勤務問題プロジェクト」での各職場の行路

労働時間については、東日本管内の8割方の職場の集約が終わり、「食う、寝る、トイレ」を基本とする最低限の要求を元に分析が始まることである。仙台空港アクセス鉄道のワンマン列車の導入に対し、安全・

安定輸送確立の観点から反対のチラシまきをとの発言があった。宮城県支部で今、関係駅、車掌、運転士、車両各職場代表者会議の設定等進めているところであり、私たちの側の共通認識も作りながら、運動を進めていくことにする。

郡山工場のリフティングジャッキの不具合についても承知しており、現地視察なども検討し、引き続き改善に向けた取り組みを強める。

幹線の労災死亡事故については、原因の究明、安全対策の実施を求めていく。事実をできる限り集約し、また、今日までにこの作業がどのように取り扱われ、効率化等されてきたのか、そこに問題はなかったのか等、仙総支部と連携し再発防止に取り組んでいく。

安全の取り組みでは、これまで業務部と企画で打ち合わせ、各職場の皆さんと連携し要求の集約や団体交渉を進めてきた。あらためて安全問題プロジェクト会議を立ち上げ、各職場、各支部代表を入れた定例の会議を開催する。

アスベスト対策委員会についても引き続き設置し、取り組みの強化を図る。

3・差別是正、不公平感のない明るい職場作りについて

昇進試験については、さまざまな声があり、課題も確認されている。二次試験が発表された後を目途に、各地区集会を開催していくことにする。代議員の発言から、具体的課題として合格率のアンバラ、試験問題の見直し等出され、受験を組織的に指導することへの賛否もあった。昨日、今日の発言でもありますが、一つには自動昇格制度を求めながらも、試験制度が厳然として存在する中では労働組合としてその制度を受け止め対応しなければならぬということ

であり、個々での取り組みになれば個々での動きになり、心配しているように仲間の競争が拡大する。組織として取り組んでいくことについては是非理解していただきたい。仲間同士の競争等、心配する声があり、先行して取り組んできた仙総支部との交流等も必要と考える。

異動の問題について。中間答弁でも明らかにしたとおり、労働委員会との和解協議が一つであり、申し立て事件以外の関連についても、仙台として4件上げて要求実現に向け取り組んでいる。その他については、地本と支社との労使関係の中で粘り強く改善の取り組みを行っていく。

4・組織強化拡大の闘い

代議員から具体的拡大にむけた取り組みの発言があった。今野君に続けというように尽きる。地本として財政を含めバックアップしていく。組織拡大対策会議を節目、節目で行い、情報の共有化を図りたい。国労の運動の継承は、組織拡大なしにはありえないことを全体が確認しなければならぬ。一気に拡大が進まない現状においての組織活動も悩み、工夫しながら活性化を図りたい。機関紙活動の重要性も教宣部を中心に共有化していく。昨年から脱退は4名(東3名、貨物1名)、加入1名。

理由は異動、昇進試験であり、この間、昇進差別事件和解の余勢を組織拡大につなげてきたが、冒頭の委員長挨拶でふれたように、逆に課題の一つとして浮き彫りになった。組織活動、取り組み等の点検でこ入れを一緒に考え対応していく。

5・2007年春闘の闘い

春闘のスタートとして、9月の賃金で「賃金・生活実態アンケート調査」を現在準備している。全員対象での取り組みになるので、各機関に

集約に向けた意思統一を要請する。代議員の発言にあるように、春闘期の職場集会、一人一要求の集約と要求作り、そして現場社員の声としての話し合いの取り組みが広がっている。現場には交渉権は無い、とする状態が続いた。地本と支社との団交では、鉛筆、消しゴムの果てまで議論しなければならぬが、会社は現場で対応できないのかとの議論があり、結果として現場での集团的労使関係は認められないが、社員の声として対応していくということを確認している。今後も工夫しながら取り組みの拡大を図っていく。

統一行動、大衆闘争の拡大との要請もあった。仙台総行動事務局を設置し、その中で検討していくことにしたい。

貨物職場からのストライキの要請については、情勢と貨物組合員の合意形成などの判断が必要。中央戦術委員長会議で検討されるので、地方からの意見として伝えていくことにする。

6・平和を守り、労働者のための政治勢力の前進に向けた闘い

9条の会への加入については、中間答弁の通り、執行委員会で検討することとする。選挙の関係は、来春の統一自治体選挙、組織内候補の扱い、共闘との関係、具体的には夏の参議院選挙の関係も同様であるが、執行委員会で検討し、推薦等決定しながら要請していく。基本は平和を守る、労働者の立場に立った政治勢力の拡大に向けた闘いである。

この一年間さまざまな課題について取り組んできた。今後も大会で確認された課題などの克服に向け、一つひとつ粘り強く対応し、要求の前進に向け、地方本部がその先頭で奮闘することを誓い、集約としたい。